

# 地域活動等に関する 県民意識調査

## 報告書

平成24年3月

社会福祉法人静岡県社会福祉協議会

# 目 次

調査の概要	・・・ 1
-------	-------

## 集計結果

Ⅰ あなた自身のことについて	・・・ 2
Ⅱ 地域生活について	・・・ 8
Ⅲ ボランティア活動について	・・・ 18
Ⅳ 社会福祉協議会の活動について	・・・ 21
自由記述	・・・ 23

調査票	・・・ 27
-----	--------

## 調査の概要

### 1 調査目的

県民の地域活動や福祉についての意識を明らかにし、社会福祉協議会が行う地域福祉活動の基礎資料とする。

### 2 調査対象

静岡県内に住む 20 歳以上の男女 2,000 人

- ・住民基本台帳から層化二段無作為抽出
- ・37 市区町から抽出。
- ・抽出に係る設計及び作業は(株)サーベイリサーチセンターへ委託

	人口30万人以上の市		その他の市		郡部		計	
東部			881,282		147,955		1,029,237	
			560	(28)	100	(5)	660	(33)
中部	592,156		357,518		30,880		980,554	
	380	(19)	240	(12)	20	(1)	640	(32)
西部	645,160		409,132		16,477		1,070,769	
	420	(21)	260	(13)	20	(1)	700	(35)
計	1,237,316		1,647,932		195,312		3,080,560	
	800	40	1,060	53	140	7	2,000	100

注) 上段:平成23年12月2日現在の母集団 下段:標本数、( )内は地点数  
1地点(町丁目)あたりの標本数は20サンプル

### 3 調査方法

質問紙を用いた郵送調査

### 4 調査期間

平成 24 年 1 月 30 日(月)～2 月 27 日(月)

### 5 調査内容

基礎属性(性別、年齢、職業等)、地域活動への参加状況、障がいに対する考え方、ボランティア活動への関心、社会福祉協議会の認知度など

### 6 有効回収数及び回収率

有効回収数(率) 792 サンプル (39.6%)

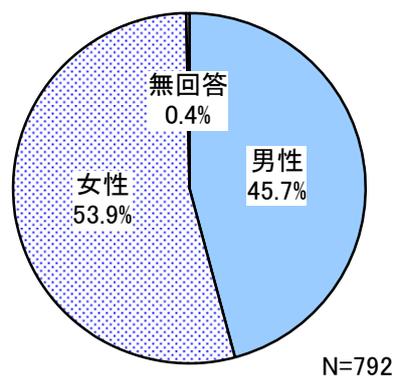
## 集計結果

抽出した 37 の市区町から計 2,000 人を抽出し、調査への協力を依頼したところ、729 人から回答を得た。回収率は 39.6%であった。

### I あなた自身のことについてお伺いします

問1 性別を教えてください。

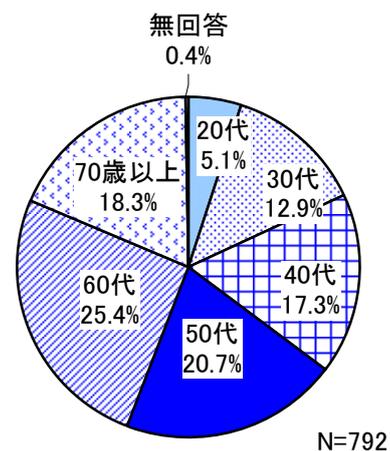
調査数	男性	女性	無回答
792	362	427	3
100.0	45.7	53.9	0.4



女性からの回答が若干多い結果となった。

問2 年代を教えてください。

調査数	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	無回答
792	40	102	137	164	201	145	3
100.0	5.1	12.9	17.3	20.7	25.4	18.3	0.4

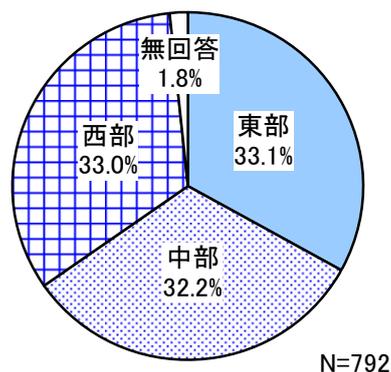


60代と回答した人が最も多く、約4分の1を占めた。

問3 お住まいの市町名をお書きください。※市町名のみで結構です。

(市区町名回答は省略)

調査数	東部	中部	西部	無回答
792	262	255	261	14
100.0	33.1	32.2	33.0	1.8

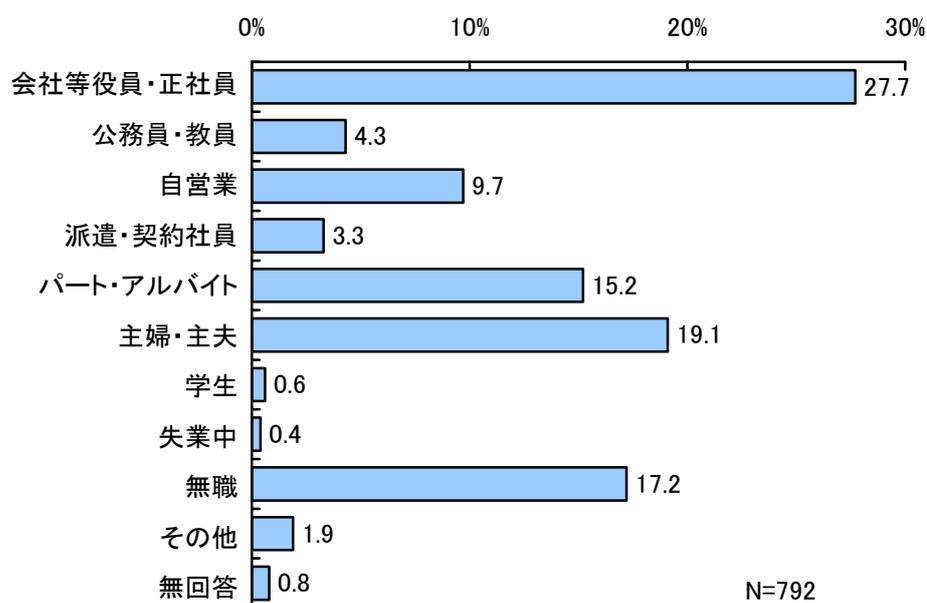


東部、中部、西部の差異は、ほとんど見られなかった。

問4 就労形態を教えてください

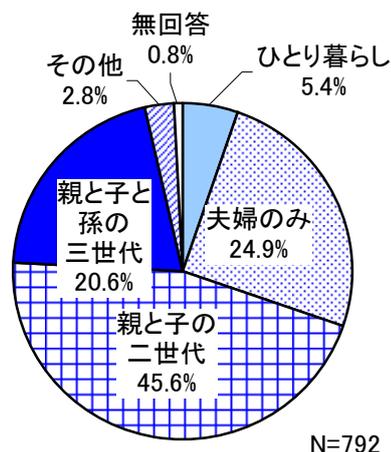
調査数	会社等役員・正社員	公務員・教員	自営業	派遣・契約社員	パート・アルバイト	主婦・主夫	学生	失業中	無職	その他	無回答
792	219	34	77	26	120	151	5	3	136	15	6
100.0	27.7	4.3	9.7	3.3	15.2	19.1	0.6	0.4	17.2	1.9	0.8

「会社等役員・正社員」と回答した人が最も多く、約4分の1を占めた。



問5 家族構成を教えてください。

調査数	ひとり暮らし	夫婦のみ	親と子の二世帯	その他	無回答
792	43	197	361	22	6
100.0	5.4	24.9	45.6	2.8	0.8

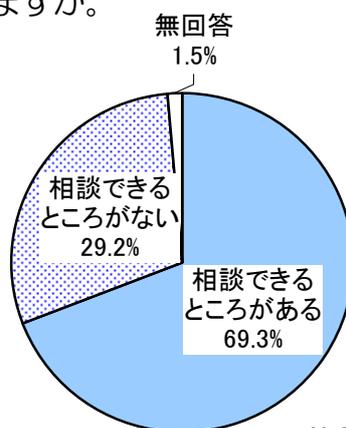


N=792

「親と子の二世帯」と回答した人が最も多く、半数近くを占めた。

問6 あなたは、あなた自身や御家族の福祉に関することで困った時に、家族・親族以外で相談できるところがありますか。

調査数	ある相談できるところが	ない相談できるところが	無回答
792	549	231	12
100.0	69.3	29.2	1.5



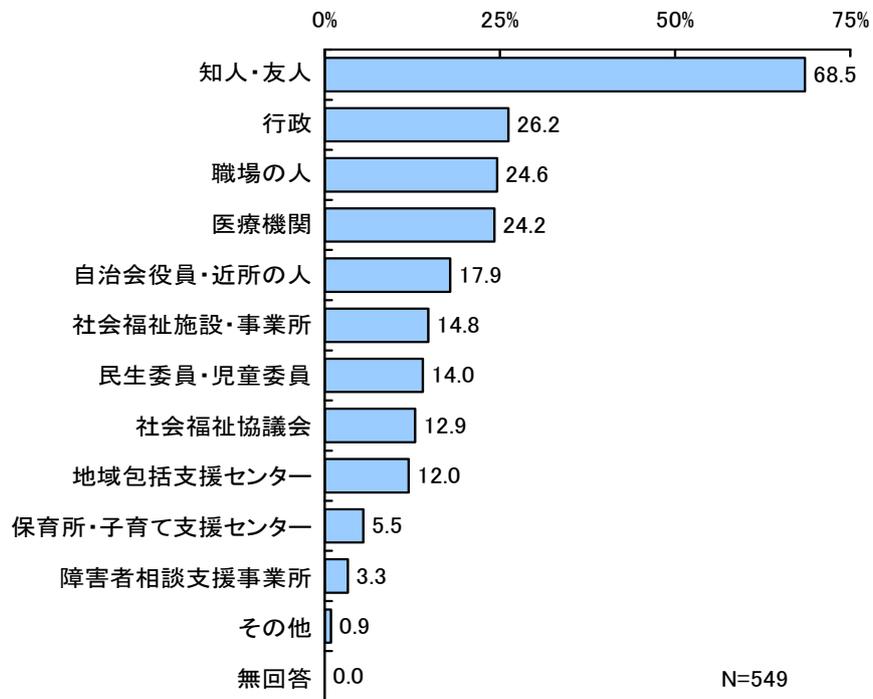
N=792

家族や親類以外に相談できるところがあると回答した人が約7割を占めた。

問6-1 それはどのようなところですか。※複数回答可  
 (6で「相談できるところがある」と回答した方への設問)

調査数	知人・友人	職場の人	自治会役員・近所の人	民生委員・児童委員	行政	社会福祉協議会	医療機関	社会福祉施設・事業所	地域包括支援センター	障害者相談支援事業所	保育所・子育て支援センター	その他
549	376	135	98	77	144	71	133	81	66	18	30	5
100.0	68.5	24.6	17.9	14.0	26.2	12.9	24.2	14.8	12.0	3.3	5.5	0.9

半数以上の方が「知人・友人」と回答した。  
 なお、「社会福祉協議会」と回答した人は12.9%であった。



問7 障がいのある人の生活について、以下のそれぞれの設問に対して、最もあてはまる選択肢の番号に○をつけてください。(各設問に○は1つずつ)

(1) 肯定的な設問に対する回答分布

問7 障がいのある人の生活について	平均得点	調査数	とても そう 思う	まあ まあ そう 思う	あまり 思わ ない	全く そう 思わ ない	無 回 答
障がいがある人が地域で暮らすことは、あたりまえのことである	3.54	792	473	256	33	10	20
		100.0	59.7	32.3	4.2	1.3	2.5
人は誰でも何かの障がいを持つ可能性がある	3.74	792	601	158	19	3	11
		100.0	75.9	19.9	2.4	0.4	1.4
障がいの有無に関わらず、人は自分の意思を尊重されるべきである	3.63	792	512	247	20	0	13
		100.0	64.6	31.2	2.5	0.0	1.6
機会があれば、障がいのある人と交流したい	2.77	792	115	388	244	26	19
		100.0	14.5	49.0	30.8	3.3	2.4
障がいがある人も、社会参加する方がよい	3.31	792	278	455	37	2	20
		100.0	35.1	57.4	4.7	0.3	2.5
障がいがある人は行政や地域住民みんなで支える方がよい	3.31	792	326	373	60	13	20
		100.0	41.2	47.1	7.6	1.6	2.5

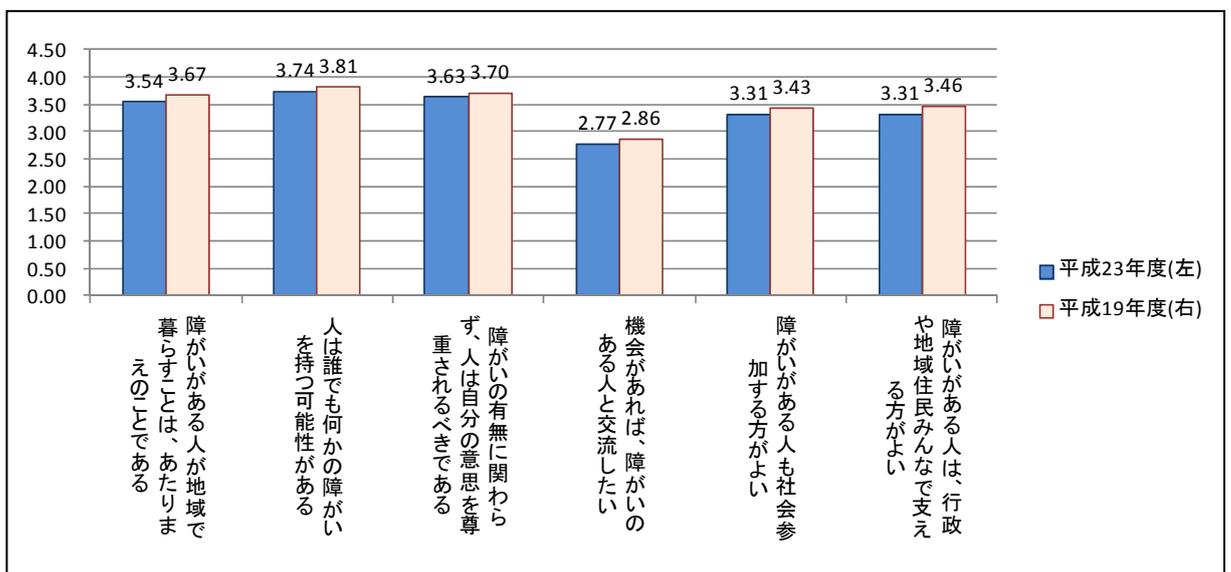
全くそう思わない=1点、あまり思わない=2点、まあまあそう思う=3点、とてもそう思う=4点で換算した場合の平均得点は表及びグラフのとおりとなった。

これらの設問に対して、得点が高いほど偏見が低いということになる。

おおむね、肯定的な回答が多かったものの、「機会があれば障がいがある人と交流したい」のみが他と比べて低い得点結果となった。

また、平成19年度に実施した「障害に関する県民福祉意識調査」(県社協実施)における同じ設問の結果と比較すると、わずかではあるが、全体的に否定的な考えや認識が強まっている結果となった。

<平成19年度調査との比較>



(2) 否定的な設問に対する回答分布

問7 障がいのある人の生活について	平均得点	調査数	とても そう 思う	まあ まあ そう 思う	あまり 思わ ない	全く そう 思わ ない	無 回 答
障がいがある人は、施設や病院で生活する方がよい	2.11	792	27	171	439	137	18
		100.0	3.4	21.6	55.4	17.3	2.3
障がいがある人は、家族・親類のみで支える方がよい	1.71	792	19	76	342	337	18
		100.0	2.4	9.6	43.2	42.6	2.3
保護者がしっかりと教育すれば、 発達障がい（自閉症や学習障がい等）にはならない	1.74	792	32	81	314	344	21
		100.0	4.0	10.2	39.6	43.4	2.7
気をしっかり持って生活していれば、精神障がいにはならない	1.76	792	31	105	287	355	14
		100.0	3.9	13.3	36.2	44.8	1.8
こころの病気を治すには、薬を飲むしかない	1.52	792	7	45	292	437	11
		100.0	0.9	5.7	36.9	55.2	1.4
全ての身体障がいは、見た目でわかる	1.63	792	11	83	292	396	10
		100.0	1.4	10.5	36.9	50.0	1.3

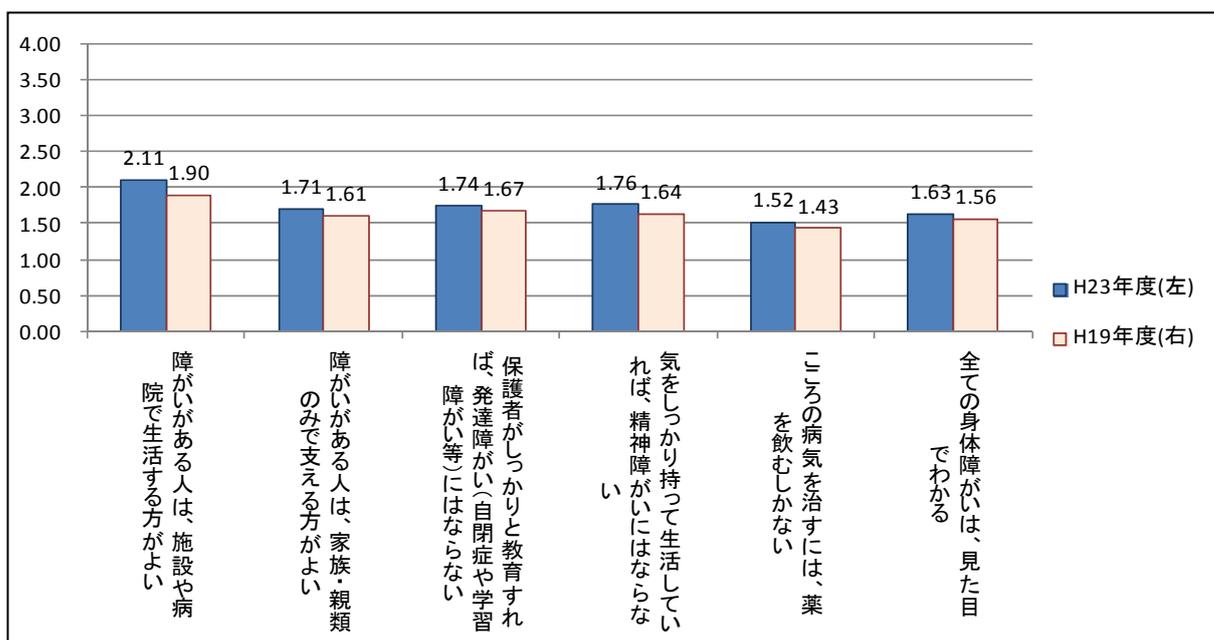
全くそう思わない=1点、あまり思わない=2点、まあまあそう思う=3点、とてもそう思う=4点で換算した場合の平均得点は表及びグラフのとおりとなった。

これらの設問に対して、得点が高いほど偏見が高いということになる。

得点はおおむね低い傾向にあるが、「障害がある人は、施設や病院で生活する方がよい」の設問得点が高い結果となった。

また、平成19年度に実施した「障害に関する県民福祉意識調査」（県社協実施）における同じ設問の結果と比較すると、全体的に得点が高くなっており、1割強の県民が否定的な考えや認識を持っているという結果になった。

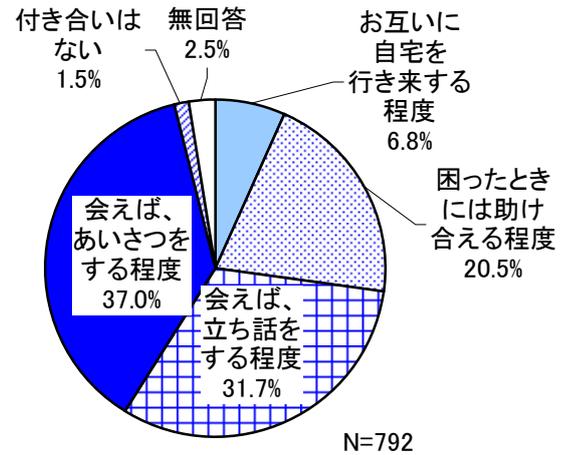
<平成19年度調査との比較>



## II あなたの地域生活についてお伺いします

問8 あなたは、近所の人とどういふ付き合い方をしていますか。

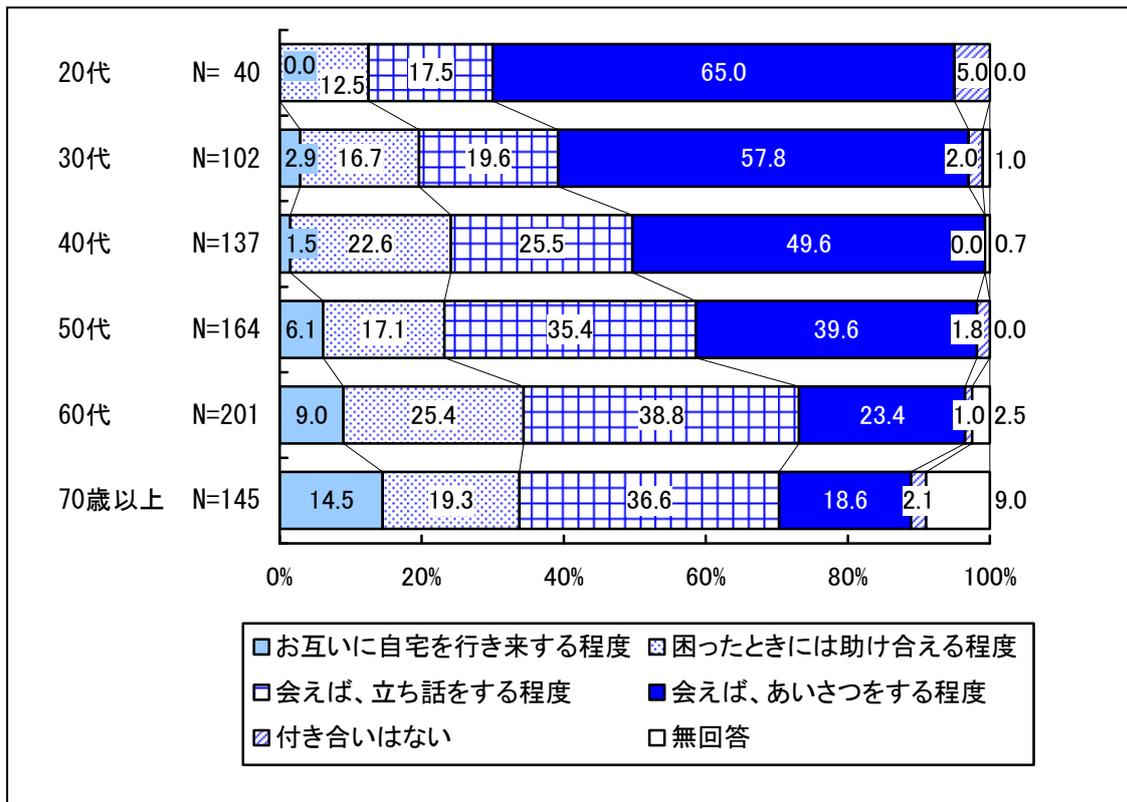
調査数	お互いに自宅を 行き来する程度	困ったときには 助け合える程度	会えば、 立ち話をする程度	会えば、 あいさつをする程度	付き合いはない	無回答
792	54	162	251	293	12	20
100.0	6.8	20.5	31.7	37.0	1.5	2.5



「会えばあいさつをする程度」が4割弱を占め、最も高くなった。

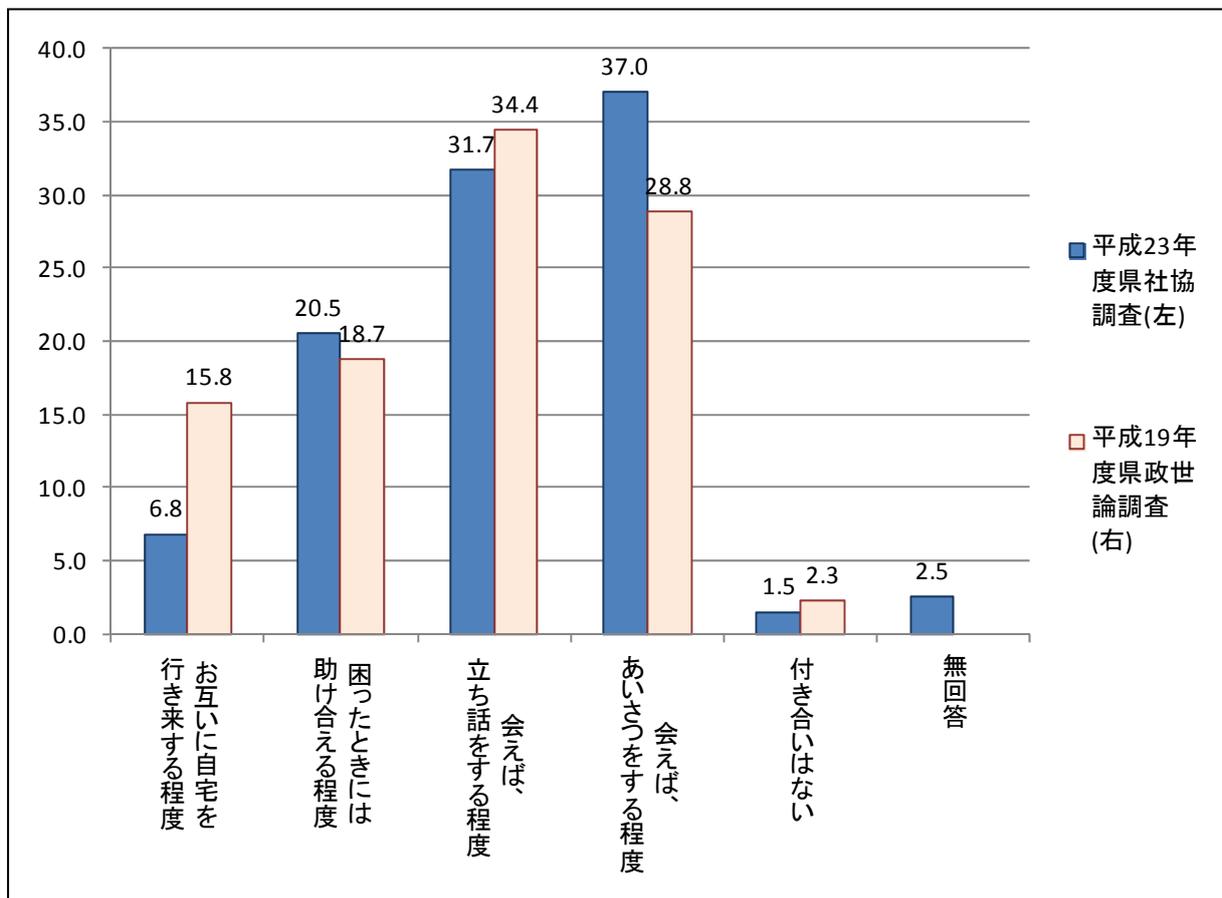
年代別の結果では、20代の7割が「付き合いはない」「会えば、あいさつをする程度」となり、近所の人とのつながりが薄い結果となった。

<年代別>



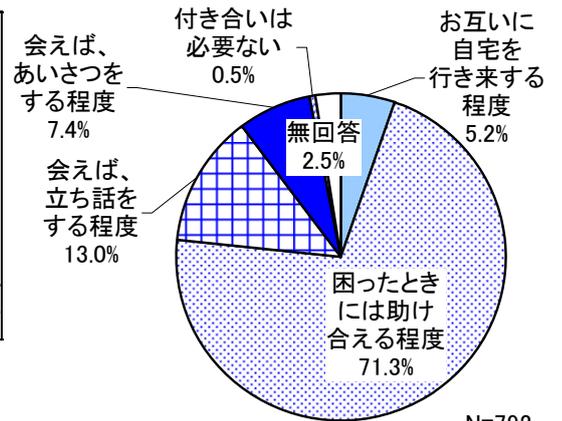
また、平成19年度の「県政世論調査」における同じ設問の結果と比較すると、平成19年度では「会えば立ち話をする程度」が最も多かったのに対し、今回の調査では「会えば、あいさつする程度」が最も多くなっており、全体的に近所の人との付き合いの程度は低くなっている。

<平成19年度「県政世論調査」との比較>



問9 あなたは、近所の人とどういう付き合い方をするのが望ましいと考えますか。

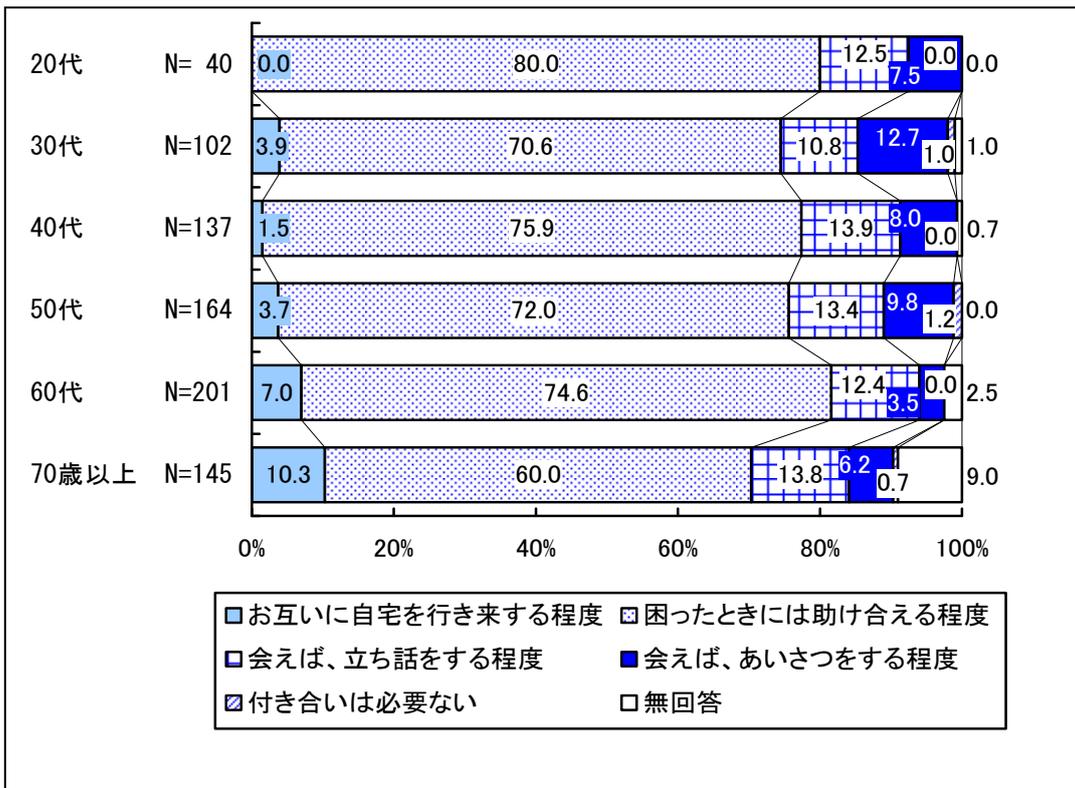
調査数	お互いに自宅を 行き来する程度	困ったとき には助け合える程度	会えば、 立ち話をする程度	会えば、 あいさつをする程度	付き合いは 必要ない	無回答
792	41	565	103	59	4	20
100.0	5.2	71.3	13.0	7.4	0.5	2.5



N=792

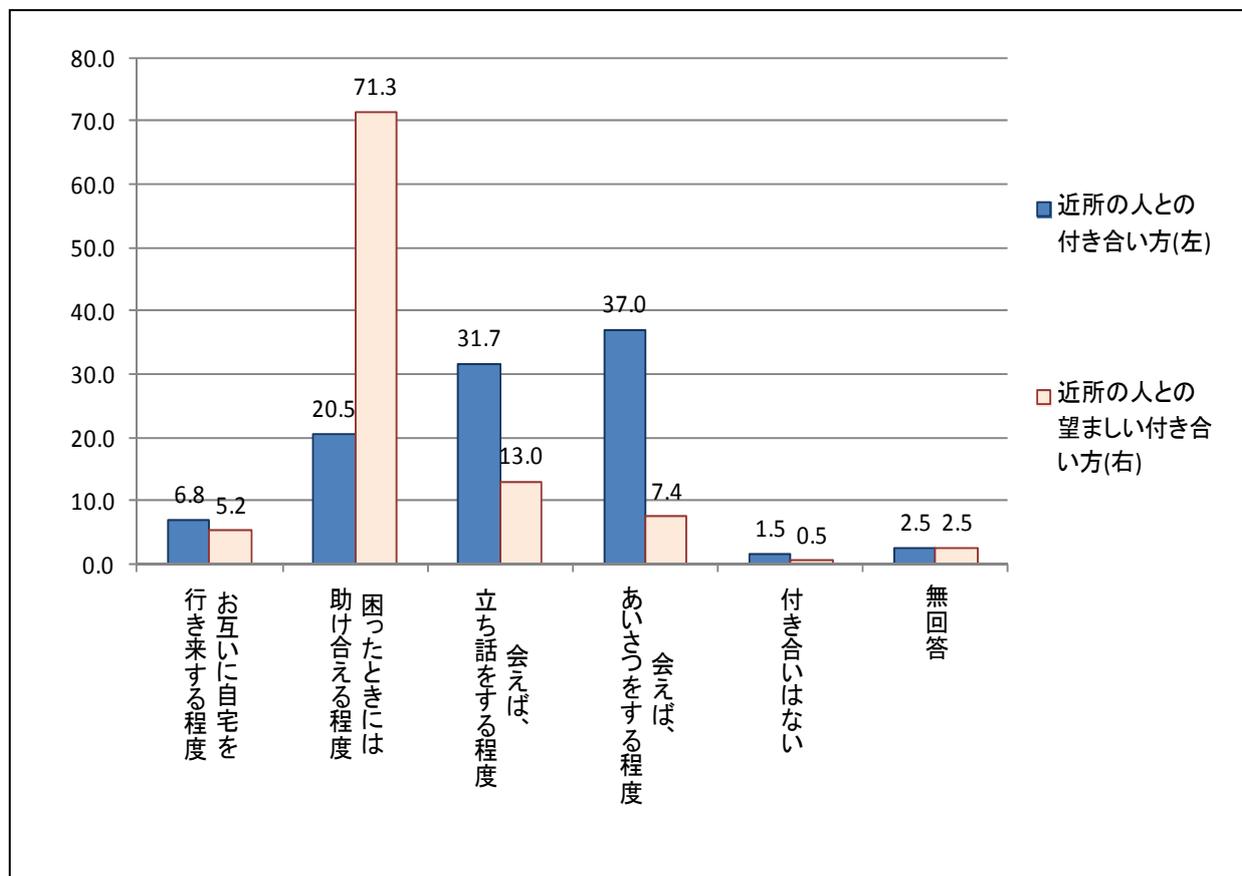
「困ったときには助け合える程度」が7割強を占め、最も高くなった。  
年代別の結果では、20代で「お互いに自宅を行き来する程度」の回答が0となり、近所の人との日頃からの深い付き合いは望まない傾向が示された。

<年代別>



また、「近所の人との付き合い方（問8）」と「近所の人との望ましい付き合い方（問9）」を比較すると、現実と理想に大きな差がある結果となった。

<問8と問9の比較>

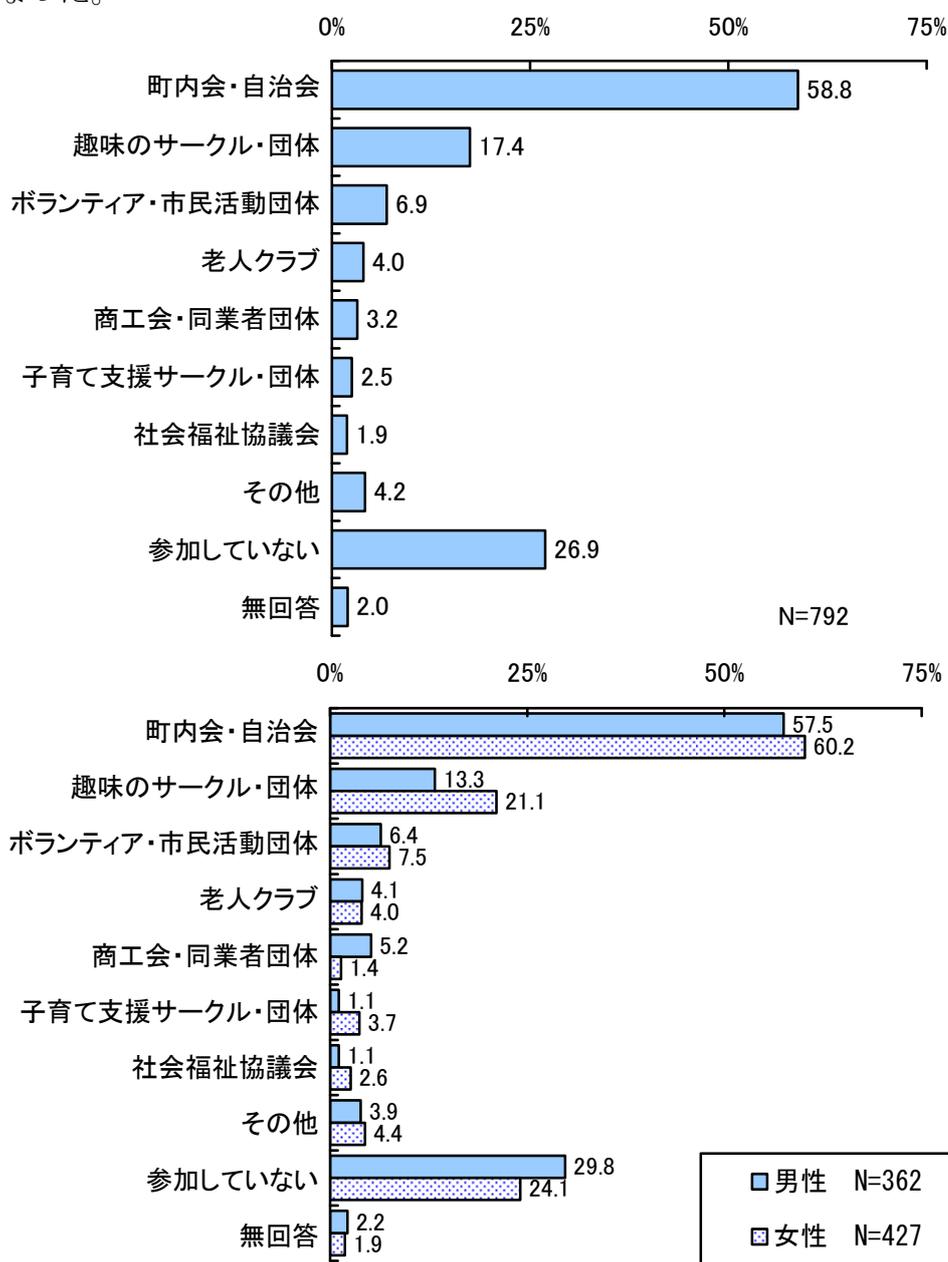


問 10 あなたは、お住まいの地域で、どのような団体や組織の活動（地域活動）に参加していますか。※複数回答可

調査数	町内会・自治会	趣味のサークル・団体	ボランティア・市民活動団体	商工会・同業者団体	老人クラブ	子育て支援サークル・団体	社会福祉協議会	その他	参加していない	無回答
792	466	138	55	25	32	20	15	33	213	16
100.0	58.8	17.4	6.9	3.2	4.0	2.5	1.9	4.2	26.9	2.0

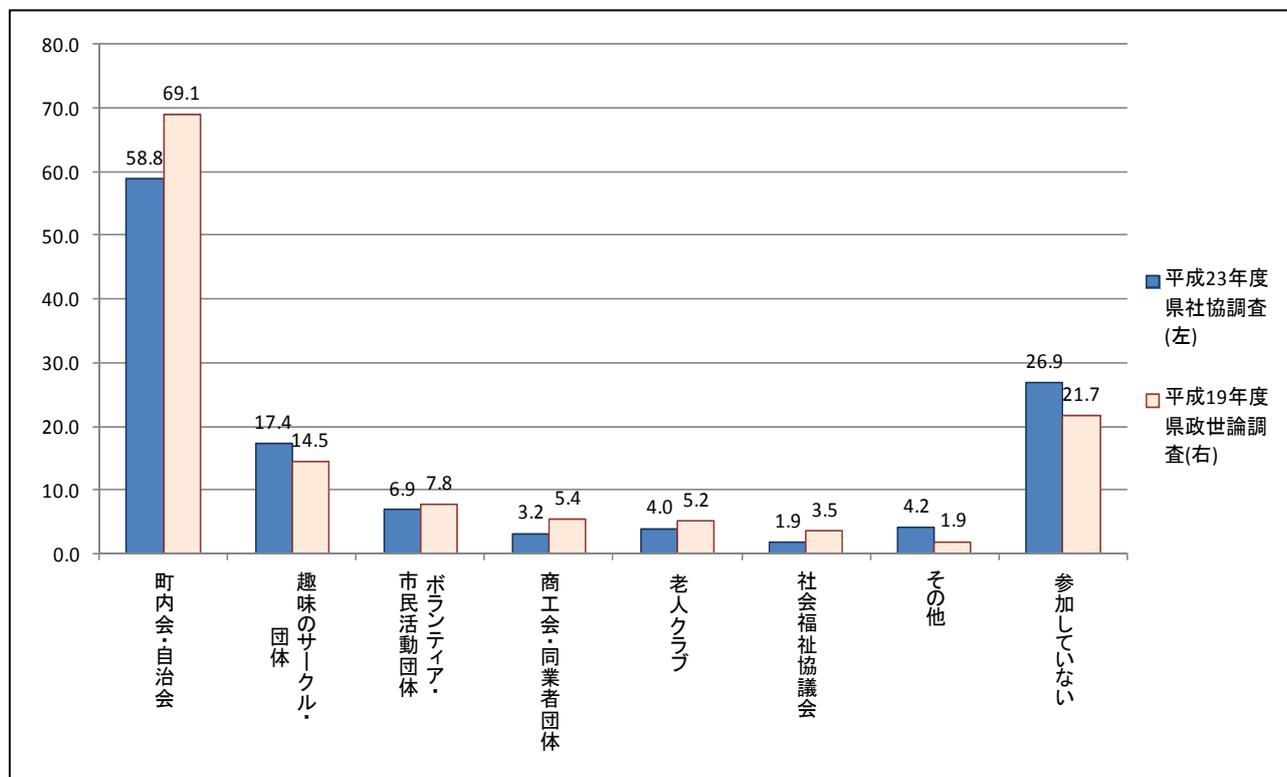
「町内会・自治会」と回答した方が最も多く、6割弱を占めた。

男女別の結果では、おおむね男性よりも女性の方が地域活動への参加率が高い結果となった。



また、平成 19 年度の「県政世論調査」における類似の設問の結果と比較すると、「趣味のサークル・団体」を除いた地域活動は、すべて参加率が下がっており、「参加していない」と回答した方が増えた。

<平成 19 年度県政世論調査との比較>



※平成 19 年度県政世論調査の「ボランティア・市民活動団体」は、「ボランティア (5.7%)」と「市民活動団体(2.1%)」の合算

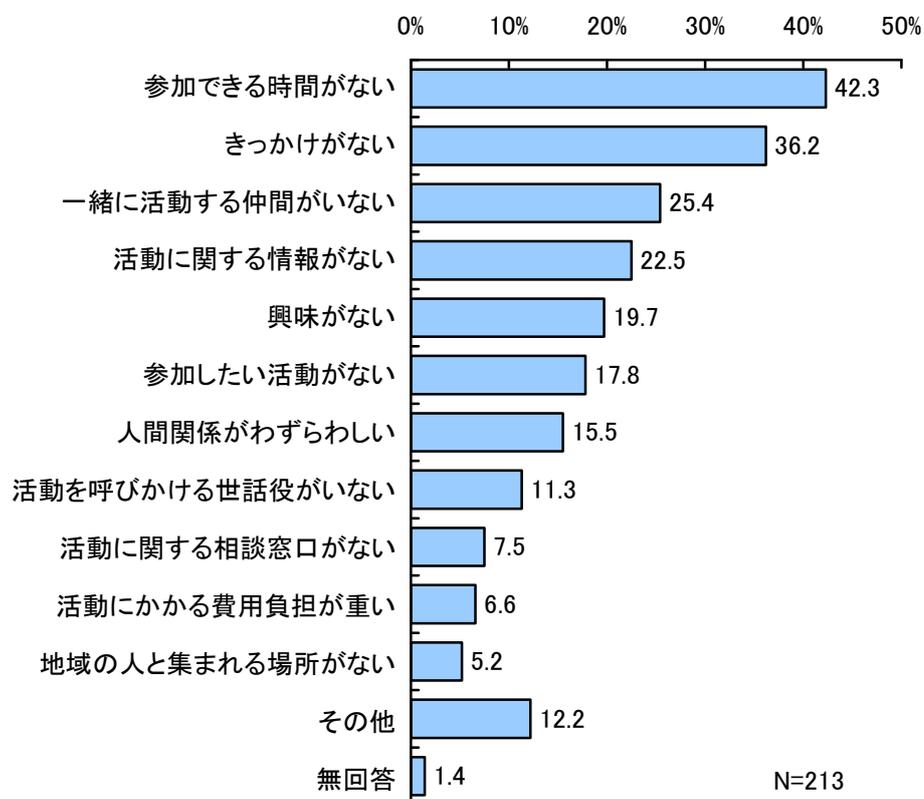
※平成 19 年度県政世論調査には、「子育て支援サークル・団体」の項目がないため表から削除

問 10-1 あなたが、地域活動に参加できない（しない）理由は何ですか。

※複数回答可（10で「参加していない」と回答した方への設問）

調査数	興味がない	人間関係がわずらわしい	参加したい活動がない	参加できる時間がない	活動に関する情報がない	きっかけがない	一緒に活動する仲間がいない	世話を呼びかける世話役がいない	活動にかかる費用負担が重い	活動に関する相談窓口がない	地域の人と集まれる場所がない	その他	無回答
213	42	33	38	90	48	77	54	24	14	16	11	26	3
100.0	19.7	15.5	17.8	42.3	22.5	36.2	25.4	11.3	6.6	7.5	5.2	12.2	1.4

4割強の方が「参加できる時間がない」と回答した。

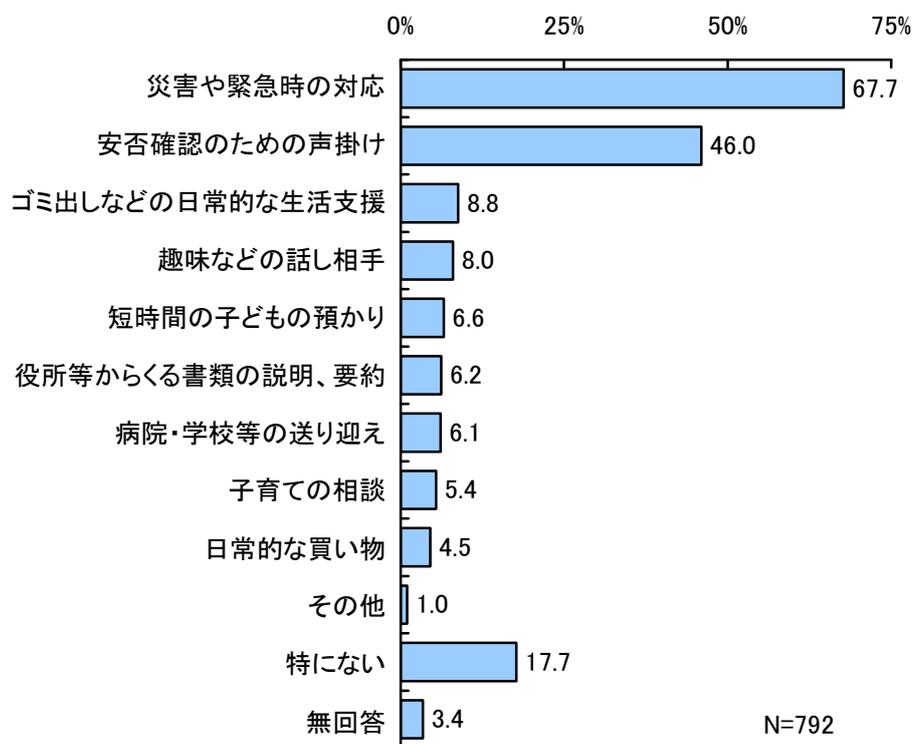


問 11 あなた自身が困ったとき、近所の方をお願いしたいことは何ですか。

※複数回答可

調査数	災害や緊急時の対応	声掛け 安否確認 のための	病院・学校等の 送り迎え	子育ての相談	短時間の 子どもの預かり	ゴミ出しなどの 日常生活支援	日常的な買い物	趣味などの話し相手	役所等からくる書類の 説明、要約	その他	特にない	無回答
792	536	364	48	43	52	70	36	63	49	8	140	27
100.0	67.7	46.0	6.1	5.4	6.6	8.8	4.5	8.0	6.2	1.0	17.7	3.4

「災害や緊急時の対応」が最も多く、次いで「安否確認のための声掛け」となっており、2項目が突出して高い結果となった。

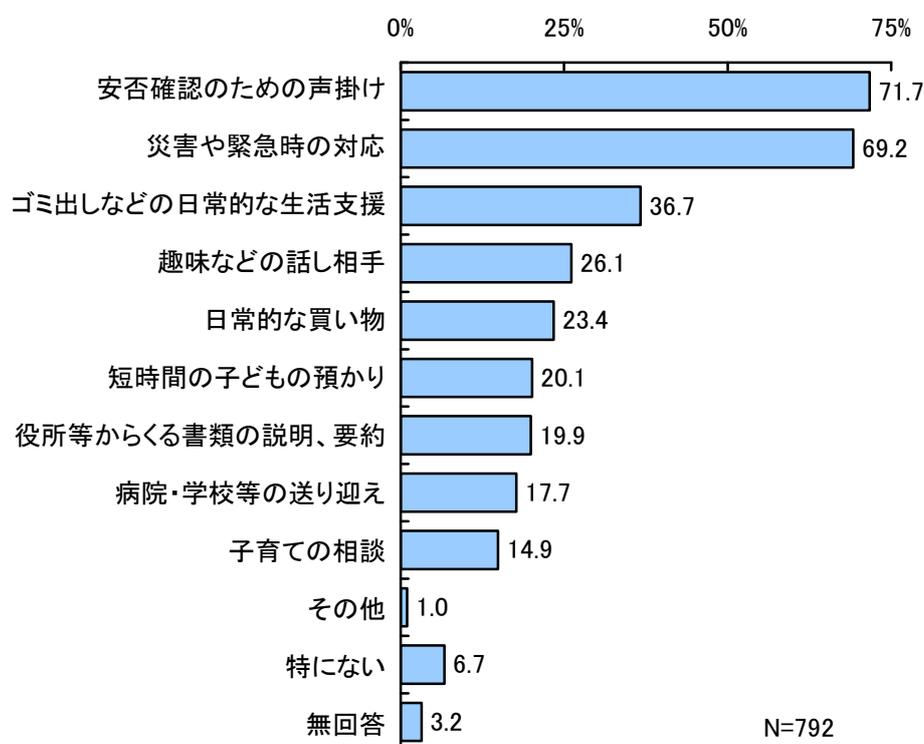


問 12 近所で困っている家庭があったとき、あなたのできることは何ですか。

※複数回答可

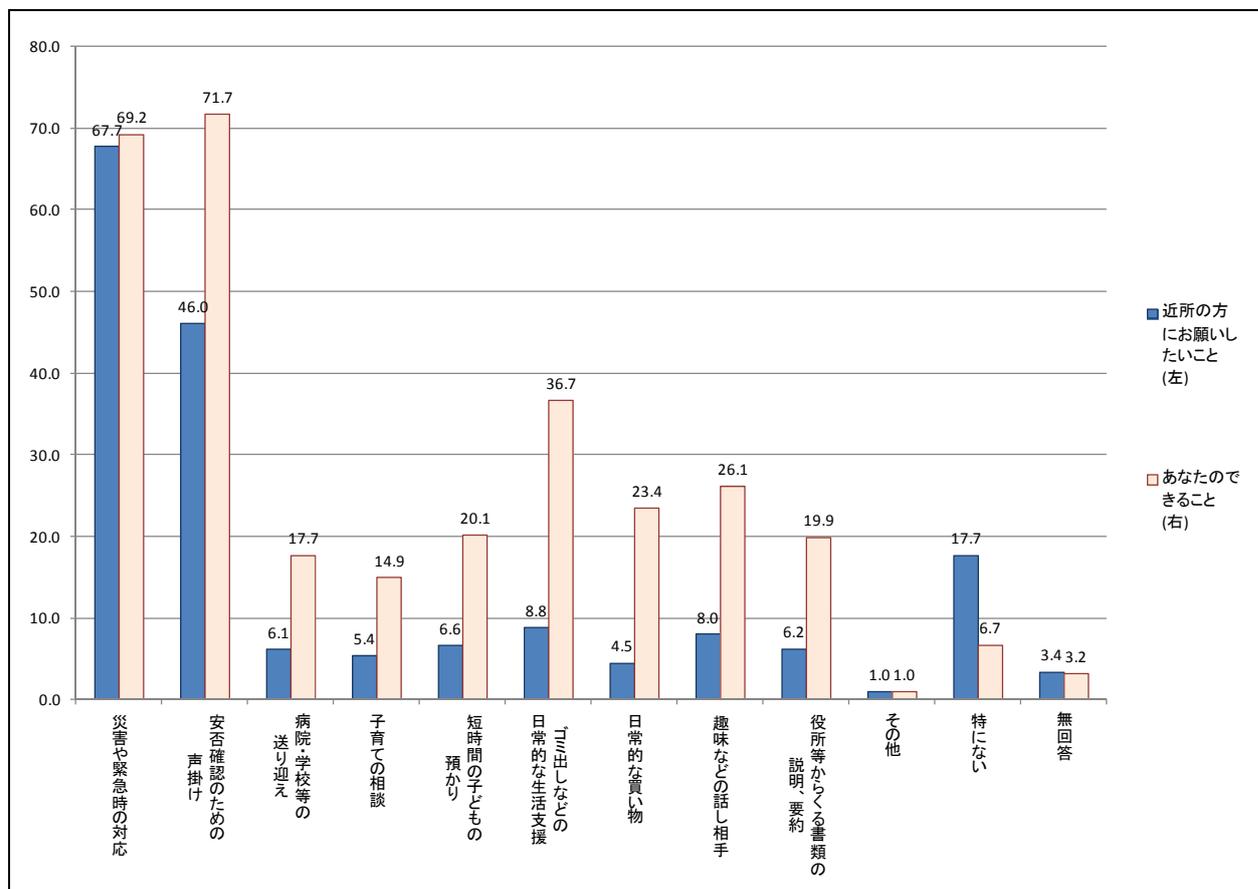
調査数	災害や緊急時の対応	安否確認のための声掛け	病院・学校等の送り迎え	子育ての相談	短時間の子どもの預かり	ゴミ出しなどの日常生活支援	日常的な買い物	趣味などの話し相手	役所等からくる書類の説明、要約	その他	特にない	無回答
792	548	568	140	118	159	291	185	207	158	8	53	25
100.0	69.2	71.7	17.7	14.9	20.1	36.7	23.4	26.1	19.9	1.0	6.7	3.2

「安否確認のための声掛け」と「災害や緊急時の対応」と回答した方が、ほぼ同数となった。



また、「近所の方をお願いしたいこと(問 11)」と「あなたのできること(問 12)」を並べると、下表のとおりとなった。

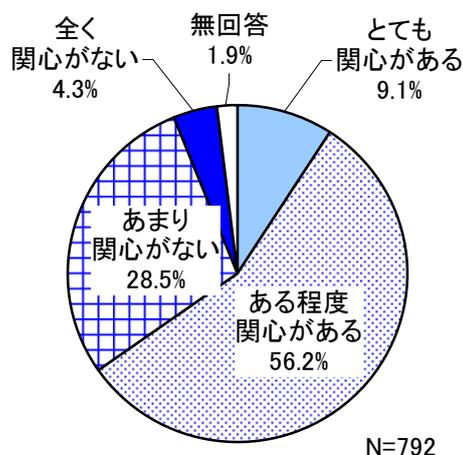
災害や緊急時の対応への関心はどちらも高く、その他の日常的な支え合いについても、「あなたのできること」が大きく上回っている。



### Ⅲ ボランティア活動（有償の活動を含む）についてお伺いします

問 13 あなたは、ボランティア活動（有償の活動を含む）に関心がありますか。

調査数	とても関心がある	ある程度関心がある	あまり関心がない	全く関心がない	無回答
792	72	445	226	34	15
100.0	9.1	56.2	28.5	4.3	1.9

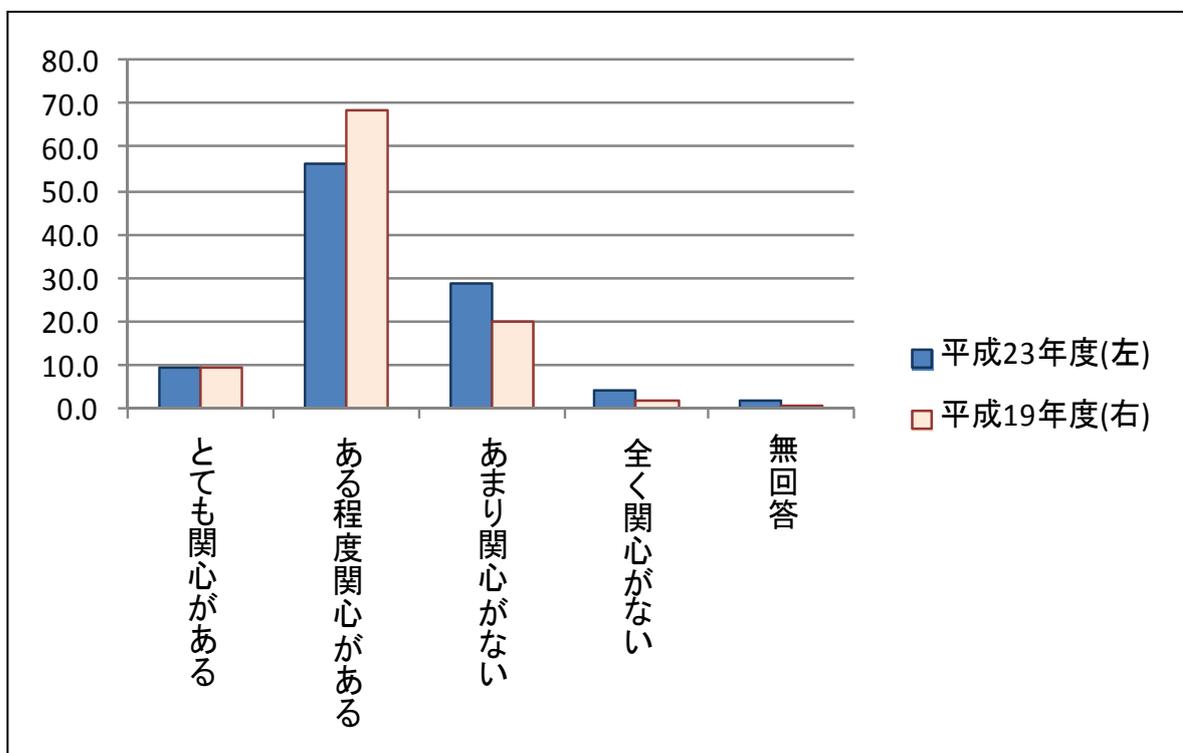


「ある程度関心がある」と回答した方が半数を超え、ボランティア活動への関心は高い結果となった。

しかし、全体の3割強がボランティア活動への関心を示していない現状であった。

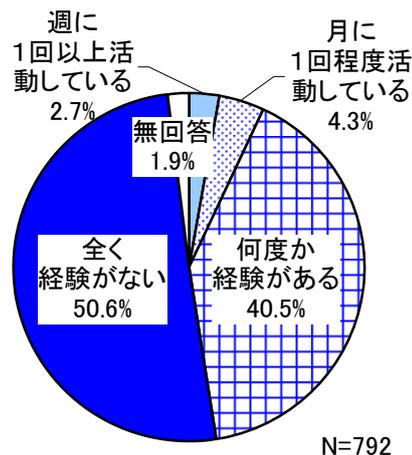
また、平成19年度に実施した「ボランティア活動に関する県民意識調査」（県社協実施）における同じ設問の結果と比較すると、ボランティア活動への関心は低くなっている結果となった。

<平成19年度調査との比較>

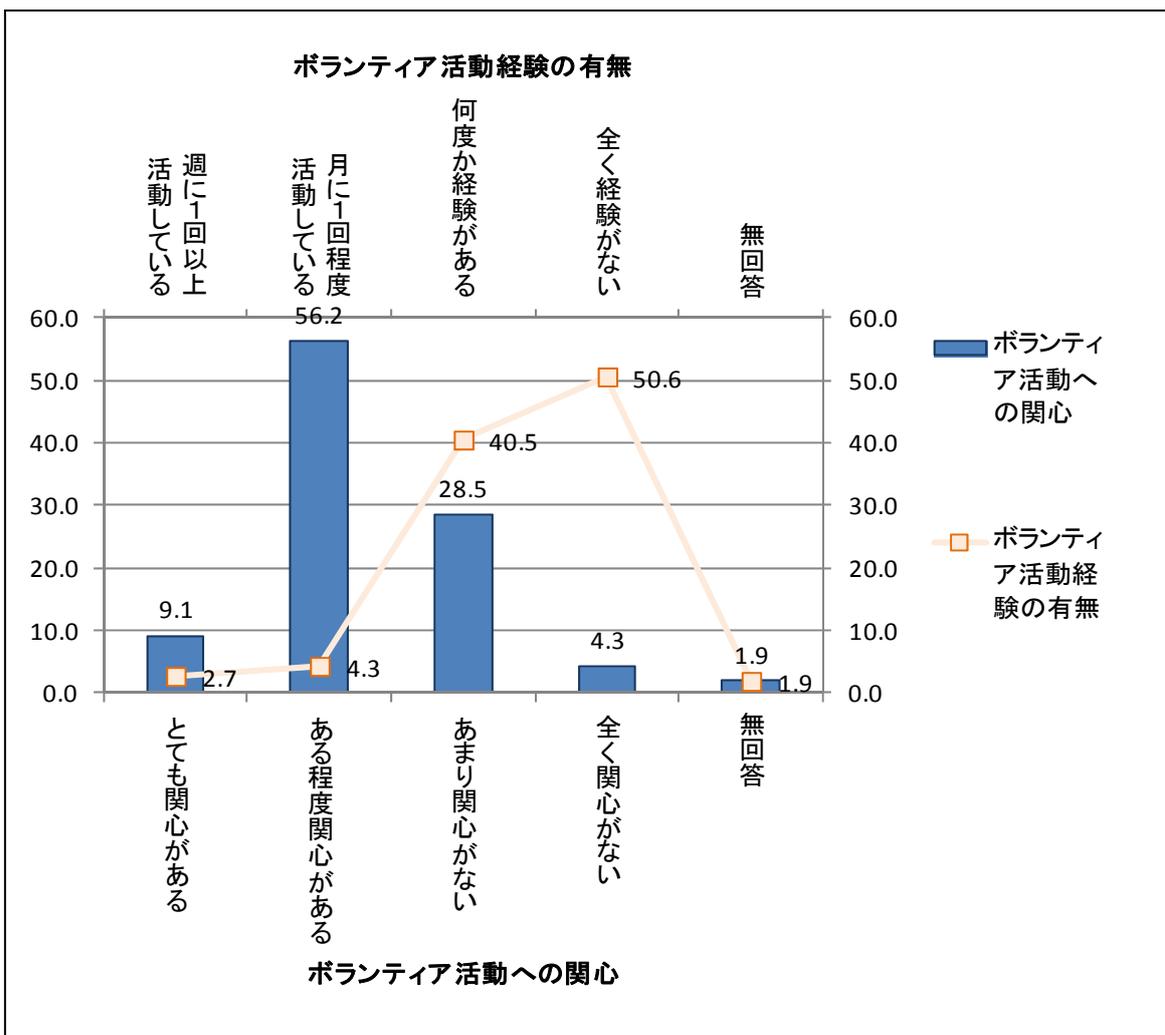


問 14 あなたは、ボランティア活動（有償の活動を含む）の経験がありますか。

調査数	週に1回以上活動している	月に1回程度活動している	何度か経験がある	全く経験がない	無回答
792	21	34	321	401	15
100.0	2.7	4.3	40.5	50.6	1.9



「全く経験がない」と回答した方が約半数となった。  
 また、「ボランティア活動への関心」と「ボランティア活動の経験」の比較により、意識は高いが活動に結びついていない傾向が示された。

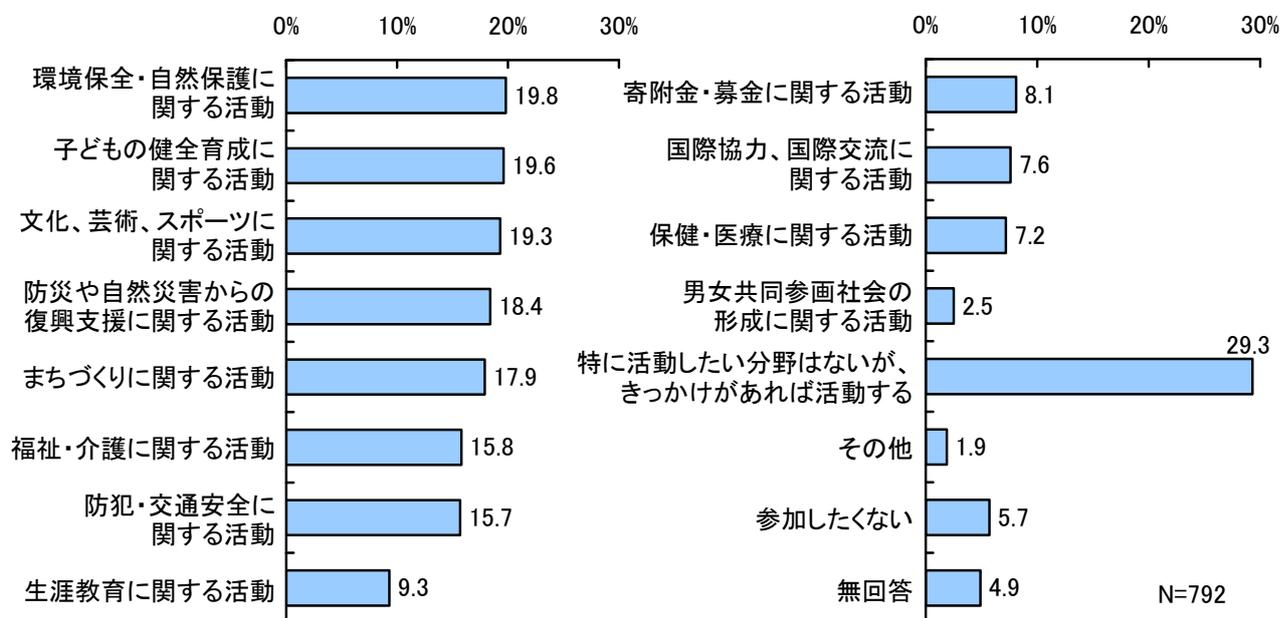


問 15 あなたが参加したいと思うボランティア活動（有償の活動を含む）は、どのような活動ですか。※複数回答可

調査数	まちづくりに関する活動	防犯・交通安全に関する活動	子どもの健全育成に関する活動	文化、芸術、スポーツに関する活動	生涯教育に関する活動	福祉・介護に関する活動	保健・医療に関する活動	寄附金・募金に関する活動	国際協力、国際交流に関する活動	男女共同参画社会の形成に関する活動	環境保全・自然保護に関する活動
792	142	124	155	153	74	125	57	64	60	20	157
100.0	17.9	15.7	19.6	19.3	9.3	15.8	7.2	8.1	7.6	2.5	19.8

防災や自然災害からの復興支援に関する活動	特別な活動、活動したい分野はないが、きっかけがあれば活動する	その他	参加したくない	無回答
146	232	15	45	39
18.4	29.3	1.9	5.7	4.9

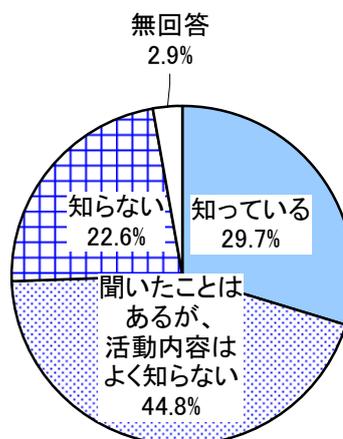
「特に活動したい分野はないが、きっかけがあれば活動する」と回答した方が3割弱という結果になった。



#### IV 社会福祉協議会（社協）の活動についてお伺いします。

問 16 あなたは、社会福祉協議会を御存知ですか。

調査数	知っている	聞いたことはあるが、よく知らない	知らない	無回答
792	235	355	179	23
100.0	29.7	44.8	22.6	2.9



N=792

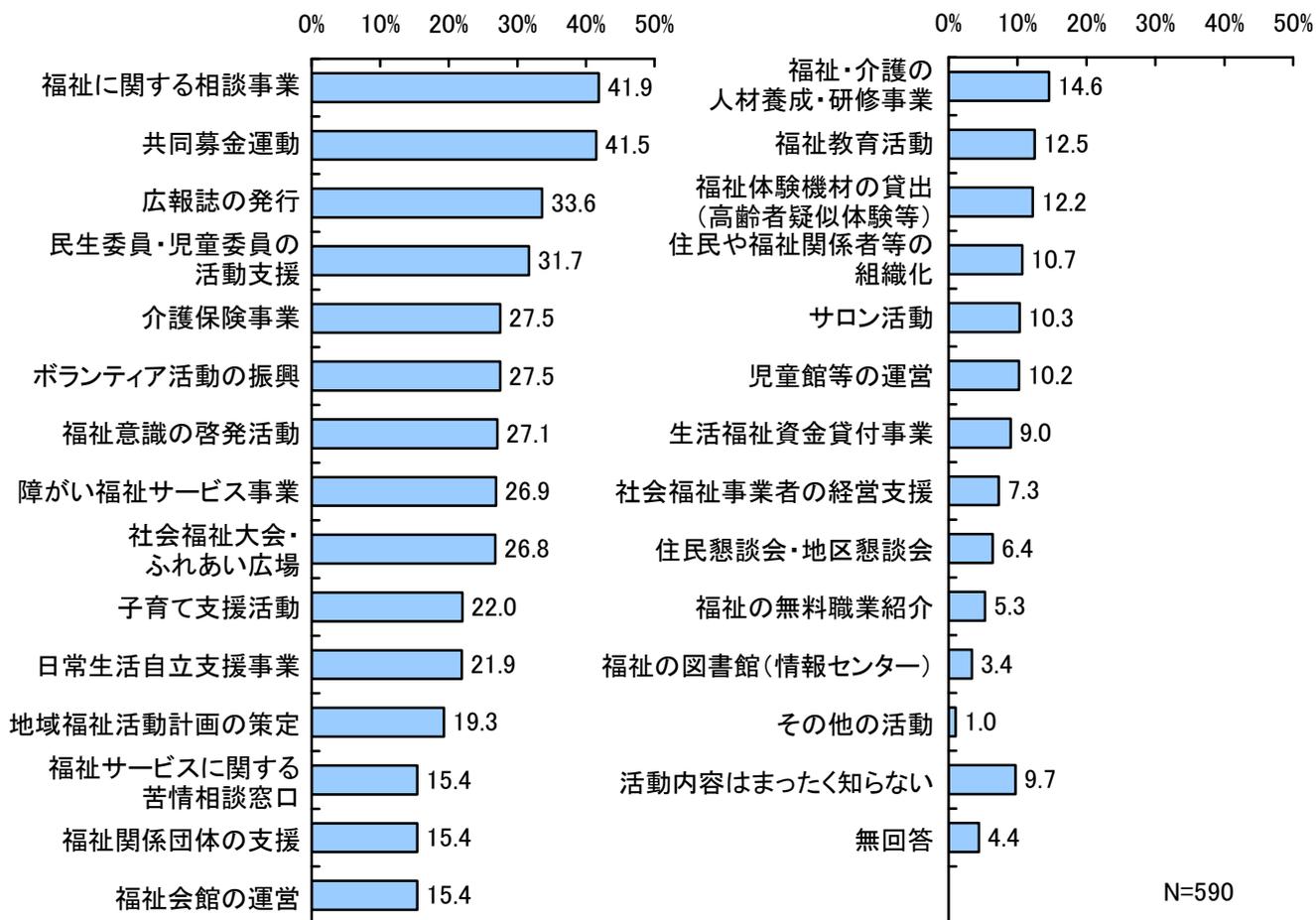
「知っている」と回答した方が3割弱となった。しかし、「知らない」と回答した方も2割強であり、約5人に1人が社協を知らないという結果になった。

問 16-1 あなたが知っている社会福祉協議会の活動内容は何ですか。※複数回答可（問 16で「知っている」または「聞いたことはあるが活動内容はよく知らない」と回答した方への設問）

調査数	福祉意識の啓発活動	地域福祉活動計画の策定	福祉に関する相談事業	介護保険事業	社会福祉大会・ふれあい広場	共同募金運動	福祉教育活動	生活福祉資金貸付事業	日常生活自立支援事業	障がい福祉サービス	住民懇談会・地区懇談会	サロン活動	子育て支援活動	福祉・介護の研修事業
590	160	114	247	162	158	245	74	53	129	159	38	61	130	86
100.0	27.1	19.3	41.9	27.5	26.8	41.5	12.5	9.0	21.9	26.9	6.4	10.3	22.0	14.6

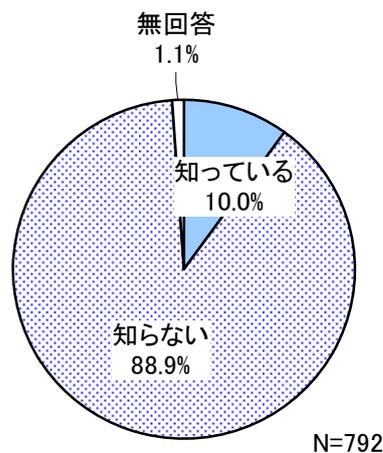
福祉体験機材の貸出（高齢者疑似体験等）	広報誌の発行	住民や福祉関係者等の組織化	ボランティア活動の振興	民生委員・児童委員の活動支援	福祉サービスに関する苦情相談窓口	社会福祉事業者の経営支援	福祉の無料職業紹介	福祉関係団体の支援	福祉の図書館（情報センター）	児童館等の運営	福祉会館の運営	その他の活動	活動内容は知らない	無回答
72	198	63	162	187	91	43	31	91	20	60	91	6	57	26
12.2	33.6	10.7	27.5	31.7	15.4	7.3	5.3	15.4	3.4	10.2	15.4	1.0	9.7	4.4

「福祉に関する相談事業」と回答した方が最も多く、次いで「共同募金運動」、「広報誌の発行」と続く結果となった。



問 17 あなたは、静岡県が独自に定めている「県民福祉の日(毎年 10 月 20 日)」を御存知ですか。

調査数	知っている	知らない	無回答
792	79	704	9
100.0	10.0	88.9	1.1



「知っている」と回答した方は1割にとどまり、「知らない」が多数を占めた。

問 18 あなたがお住まいの地域をよりよくするために、アイデアがあれば教えてください。（回答数 193 件から抜粋）

※個別の市町名は『市町名』と表記を変更

- ・障がい者の働く場所をもっとつくって欲しい。障がい者等の集まれる場所もつくって欲しい。
- ・小・中学校の「運動場」を開放したい。事件、事故の発生が増えた事で、土日、門扉を閉じる学校がほとんどであるが、土日に関しては、学校の管理責任を緩和し地域住民のスポーツや遊びの場になる様に考えてみたい。子ども達が部活動等をする場合には勿論優先させるが、日頃活動せず門扉を閉めきっておく事は、せっかくの施設が活用されず残念な事です。
- ・既存の地域活動団体との連携をはかり、社会福祉に関係する提供を行う事により、貴協議会の認知度を上げる。ホームページを見やすくして、アピール度を高める。
- ・独身の人も増えてきているので、今後ますます地域のコミュニケーションが必要になってくると思います。町内での買い物が必要な人がいたりしたら、その意思が簡単にわかるシステムがあると良いのかと思われまます。携帯メールに内容が入ってきたり、どこかの掲示板に貼り出したりする方法等も良いかと思ひます。プライバシー等の問題もあると思ひますが、若い子達と年輩の方がコミュニケーションをとれるので、とても良いのではないかと思ひます。
- ・お隣同士、顔をあわせればごあいさつ、また、家族の人の健康状態をお聞きする事。また、親戚の人からのお送りもの等、分けあって食べていただいたり、また家での煮物のおすそ分け等をしたりして、ちょっとした声かけをしております。ひとり暮らしでは、ご近所の方々のお声がうれしい事です。
- ・ひとり暮らしの高齢者が大勢いますが、皆で集っておしゃべり等する場があれば、良いと思ひます。公共の場を借りられると良いと思ひます。図書館等は場所が空いていないのでしょうか。
- ・最近では犯罪が多く子どものいる身としては心配な事が多くなつてきています。なので、子ども達を守るために登下校時に親・先生・ボランティアの方々に協力してもらい安心、安全な登下校ができたなら良いなと思ひます。
- ・子どもへの福祉ボランティア啓蒙をもっとするべき。小・中・高の生徒達へ、地域防災訓練への参加を義務づける…等も必要なのでは…。（現在は、中・高生のみ学校によって参加させている感じ）今、30～40 代世代はボランティアに対する意識がとても低いと感じます。（意識のある人とない人との差も激しい。）そういう世代を今後つくらないためにも教育が大事だと思ひます。
- ・これから高齢化社会になり、ひとり暮らしのお年寄りが増え、やはり毎日の生活の中、病院通いや買い物を他人に頼むのは心苦しい（身内でも相手の都合等あるので…）必要な時、電話等すれば常に巡回の車とかが地域を回っていて、心置きなく依頼できて足がわりになつてもらえる様なシステムに町全体がなれば良いと思ひます。

- ・社会福祉に関する地域の講演会や説明会等が全く実施されていないので、地域住民に対する指導教育の必要性が感じられる。
- ・自然災害に対し、とても不安が多い今、となりは何をする人ぞ？では、あまりに悲しいと思います。一人ひとりのプライバシーを考えるとなかなかオープンにしていく事は難しいという問題がありますが、その時になってはもう遅いと思います。民生委員の方等、地域をよく知る人がより多く声かけをしてもらったり、地区ごとの（班）での集まりができる様なイベント等、半強制的であっても始めたりしていくのも良いのではないかと思います。やはりコミュニケーションをとるとというのが、なんでも解決の糸口になると思います。社協については、名前は知っていますが、内容はわかっていないというのが私でした。大人がこうですから、子どもはさっぱりだと思います。しかしこの頃では、子どもも福祉に対する知識がある子もいるので、ぜひ学校の道徳の授業等にも臨時講師で訪問したらどうでしょう。
- ・核家族が進む中（私も仕事を持っています）、近所付き合いがない家庭がほとんどではないでしょうか？私の近所はお年寄りも多く、正直話しが合わない…という事もあります。老若男女が交わり生活していく事が一番だと思います。そんな集まり（お祭りやら、スポーツ教室、手芸教室）等、年輩者から学べる場がもっと身近にあればなと思う事があります。公民館等を使って無料で学びあえる教室の開催があったらぜひ参加してみたいです。
- ・1. 子どもの健全育成の環境づくり。2. 各家庭が子育てに安心して取り組める地域づくり。3. 若い夫婦が赤ちゃんを安心して生み育てられる環境づくり。
- ・障がい者に対する支援や対応は「時と場合」によって大きく変動するので、一律な制度では状況を混乱させる。大切なのは健常者と呼ばれる普通の人達が「障がい」について知識を深める事である。「障がい」に対して閉鎖的な教育を見直し、社会全体で受け入れる柔軟性を養う必要がある。多くの障がいは、環境と個性によって決まる。個人を尊重する姿勢を重視すべきであり、制度で保護するだけでは根本的な解決へは向わないものと思われる。まずは行政サイドの意識改革を期待する。
- ・自分の住んでいる所は田舎なので「どこの誰」というのにこだわるので、地元でのボランティアは敬遠したいと思う。同じ市内でも顔見知りでないの方が気軽にボランティアできるのではと思います。
- ・バスの運行も少なくなっていて年寄りの買い物等が不便でかわいそうだと思います。小規模で良いので（マイクロバス程度でも）あったら良いなと思います。
- ・小学生の子ども達の支援活動がもっとあっても良いと思います。放課後、土日、夏休み等の居場所づくり。障がいのある方と子ども達の交流の機会をつくる。
- ・地域の海岸や川の美化に努める。清掃だけでなく憩いの場としての活用できるよう整理する。最近生活保護を受ける若年者が急増していると聞きます。誰がみても基準がおかしいという声をよく耳にします。国民年金受給者の方が苦しい生活をしているとも言われております。民生委員の方を増員し（有償）調査の援助を強力にする。

- 町内会、自治会レベルでの活動がよくわからない。学校等でやっている電子メールサービスを利用してはどうか？震災以来、各個人のボランティア意欲が高まっていると思う。気軽に参加できる様に工夫してはどうか？
- いろいろな問題もあろうかと思いますが、お年寄りと子どもが交流できる、一緒に過ごせる場なりがあるとお互いにとって良いのだろうと思いますが、一緒に預けるとか。
- 昼間は近所に若い人がほとんどいません。何かあった時心配です。年老いたひとり住まい、又夫婦住まいの人が何かあった時知らせたくてもそれができないと大変です。その様な時、隣近所にすぐ知らせられるベルとか何かあったらと思います。
- 身体の不自由な人や、高齢者でゴミステーション迄運ぶのが大変な人を登録して、玄関前に置いたゴミを近所の人で運んであげるボランティアがあれば助かると思います。
- 文化的レベルが、もっと上げると願います。カルチャー講座の開設も有効でしょうか。
- 子ども達が下校後に集まって遊べる施設があれば良いと思う。単数か、家の中で遊ぶ事が多いので…。今ある公園等は、人目も少なく、少し奥に入った所にあるので、少し子どもだけで行かせるのは心配。学校や子ども会等で、老人ホームや障がい者施設等の訪問等を、もっと積極的に行って欲しい。身近に感じる事がないと、いつまでも特別な人だと思ってしまう。
- 高齢者が増える中で、支援を求める人（内容）を表に出し、それを受け入れる事のできる人を見つけ出せる求人活動の様なもの互いに気をつかい過ぎずに助け合える世の中になると良いのではと思います。
- 堅苦しくならない。誰でも気軽に1人でも入れるサロンみたいところが欲しい！
- 近隣同じ町内の催し（1年に1回のどぶそうじ）のみの交流のため、馴じめない。気軽に近所通じ参加できるレクリエーション等があると良い。（お互い声をかけやすい雰囲気づくりを普段から心がける事が一番地域の向上につながるのでは…。）
- 寝たきりの方の介護をしていらっしゃる方々はストレスが大変たまると思う。たまにはそこから開放させてあげる、息ぬきをさせてあげる等、少しでも代わりに介護してあげる等の配慮も必要だと思う。そばで見てあげられる家族がいるのであればできるだけ一緒に暮らしてみんなで協力しあって不自由な方々の面倒を見てあげられれば、介護してあげる方もしてもらおう方もきっと心強い気がします。介護保険のために家族がばらばらになった方がいるのを目にしました。寂しい事です。
- その地域の町内の組があると思うが、5件～10件程度で、何ヶ月か1度、懇親会みたいな顔合わせする。相手も知らず地域を良くしようと思っても無理がある。その様なきっかけがない。

- ・美しいまちづくり。地区ごとにNPOの形で地区美化隊の設立ができたらと思う、道路とその周辺、水路とその周辺、河川の堤防の草刈がされる町を！観光客、外来者から常に見られている所の美化。きれいな道端はごみの投棄が少なくなる。公共施設（道路、水路、河川）を大切にする思想教育に結びつけば。美しいまち、きれいなまちは当然衛生的なまちと考えます。地域で実行すれば当然コミュニケーションや絆が生まれる※昔は農家の皆さんが草刈を競って行い、草を飼料や堆肥として活用していた時代が懐かしく思っています。
- ・介護の件 『市町名』にある、とある自治会では、ひとり暮らしで身体の不自由な方は自治会の役員の方の承認があると、1時間500円でボランティアの方が手伝いに来て下さる制度があるそうです。
- ・高齢者が40%を越すという時代がやがてやってくるが、それに向けて知恵を絞っている様に見える。私のアイデアは2つ。1つは元気に働く高齢者にする事、都会とちがい田舎には畑があり農業ができる。クワを持ちたくなる様な誘導策が必要。都会等、働くとは雇ってもらふ事等だが、田舎には畑という都会にはないインフラがある。これを活用する知恵出す事。2つ、介護老人が急増するが、社会が支えきれなくなる。元気な年寄りが元気でない年寄りをボランティアを基本にみる。素人では困難になったら公的介護がみる、としたい。町内会単位で60才になったらみんながヘルパー資格をとる。空き家を利用して、おしゃべりハウス、初歩的介護ハウスにする。面倒をみていた人がやがてみられる人になる。これを行政主導でなく、ボランティアで立ち上げる。まさに社協の出番ではないか。
- ・避ける事ができない高齢化社会なので逆に高齢者を活用（有償）した地域活動を展開する。自治会、等とは全く別の組織で、あくまでも仕事（有償）としての活動（声かけ、移動の補助、子ども達の登下校の見廻り等）を行う。
- ・地域コミュニケーションの必要性について理論に基づいた勉強会をしたらどうでしょうか？欲求の5段階の様に基づいた理論について納得できれば、偏屈な人も減るだろうし、人と人の結びつきの大切さが共通の理解となり、共通の目的を持って地域住民が暮らして行けると思う。
- ・中古ショップは多いけれど、フリーマーケットやバザーの様な活動が少ない。組織立てて1～2ヶ月程度に1回行くと、ごみの削減、地域の交流・活性化につながると思う。社協が音頭をとって行っても良いのではないか。

# 地域活動等に関する県民意識調査

## 《御挨拶とお願い》

静岡県社会福祉協議会では、県民の地域活動や福祉についての意識を明らかにするとともに、活動啓発の基礎資料を得るため、このたび県民を対象に標記調査を実施することとなりました。

つきましては、各市町の許可を得て、住民基本台帳から無作為に抽出した20歳以上の方へこの調査票をお送りしておりますので、調査への御協力をお願いします。

なお、調査で得たデータ・個人情報につきましては、本会「個人情報の保護に関する方針（プライバシーポリシー）」に基づき、本調査にのみ使用し、他の目的で使用することはありません。

プライバシーポリシーは、ホームページ（<http://www.shizuoka-wel.jp/>）に掲載しています。

この調査に御協力いただける場合は、黒か青のボールペンでこの調査票に御記入いただき、同封の封筒で御投函ください。（**最終締切：平成24年2月27日**）

突然のお願いで大変恐縮ですが、御協力くださるよう、重ねてお願いいたします。

### 社会福祉協議会とは？

社会福祉協議会（略称：社協）は、地域で生活している人が抱える様々な問題を地域全体の問題として捉え、みんなで考え、話し合い、協力して解決することを目的としています。

高齢の人も、障がいのある人もそうでない人も、みんなが住みよいまちづくりを進める民間の団体で、全国の市町村にあります。

たとえば、各種の福祉サービスや相談活動、ボランティアや市民活動の支援、共同募金運動への協力など、全国的な取り組みから地域の特性に応じた活動まで、さまざまな場面で住民主体による地域の福祉増進に取り組んでいます。

### 御記入の際に

- 1 選択肢がある場合には、あてはまる番号を○印で囲んでください。
- 2 質問によっては、回答していただく方が限られる場合がありますので、矢印や案内にそってお答えください。
- 3 なんらかの事情で御本人が記入できない場合は、御家族の方などに代筆していただくか、御本人の意思を尊重して代わって御回答ください。

### 調査についてのお問い合わせ

社会福祉法人静岡県社会福祉協議会 企画総務部企画情報課

TEL：054-254-5237 FAX：054-251-7508

E-mail：spcsw@shizuoka-wel.jp

## I あなた自身のことについてお伺いします

問1 性別を教えてください。(○は1つだけ)

- |      |      |
|------|------|
| 1 男性 | 2 女性 |
|------|------|

問2 年代を教えてください。(○は1つだけ)

- |       |       |       |       |       |         |
|-------|-------|-------|-------|-------|---------|
| 1 20代 | 2 30代 | 3 40代 | 4 50代 | 5 60代 | 6 70歳以上 |
|-------|-------|-------|-------|-------|---------|

問3 お住まいの市町名をお書きください。※市町名のみで結構です。

( ) 市・町

問4 就労形態を教えてください。(○は1つだけ)

- |             |            |
|-------------|------------|
| 1 会社等役員・正社員 | 6 主婦・主夫    |
| 2 公務員・教員    | 7 学生       |
| 3 自営業       | 8 失業中      |
| 4 派遣・契約社員   | 9 無職       |
| 5 パート・アルバイト | 10 その他 ( ) |

問5 家族構成を教えてください。(○は1つだけ)

- |          |             |           |
|----------|-------------|-----------|
| 1 ひとり暮らし | 3 親と子の二世帯   | 5 その他 ( ) |
| 2 夫婦のみ   | 4 親と子と孫の三世帯 |           |

問6 あなたは、あなた自身や御家族の福祉に関することで困った時に、家族・親族以外で相談できるところがありますか。(○は1つだけ)

- |               |               |
|---------------|---------------|
| 1 相談できるところがある | 2 相談できるところがない |
|---------------|---------------|

▶【問6-1は、問6で「1 相談できるところがある」と答えた方にお聞きします。】

問6-1 それはどのようなところですか。(あてはまるものすべてに○)

- |              |              |                  |
|--------------|--------------|------------------|
| 1 知人・友人      | 5 行政         | 9 地域包括支援センター     |
| 2 職場の人       | 6 社会福祉協議会    | 10 障害者相談支援事業所    |
| 3 自治会役員・近所の人 | 7 医療機関       | 11 保育所・子育て支援センター |
| 4 民生委員・児童委員  | 8 社会福祉施設・事業所 | 12 その他 ( )       |

問7 障がいのある人の生活について、以下のそれぞれの設問に対して、最もあてはまる選択肢の番号に○をつけてください。(各設問に○は1つずつ)

	とても そう思う	まあまあ そう思う	あまり 思わない	全く 思わない
1 障がいがある人が地域で暮らすことは、あたりまえのことである	1	2	3	4
2 人は誰でも何かの障がいを持つ可能性がある	1	2	3	4
3 障がいの有無に関わらず、人は自分の意思を尊重されるべきである	1	2	3	4
4 機会があれば、障がいのある人と交流したい	1	2	3	4
5 障がいがある人は、施設や病院で生活する方がよい	1	2	3	4
6 障がいがある人も、社会参加する方がよい	1	2	3	4
7 障がいがある人は、家族・親類のみで支える方がよい	1	2	3	4
8 障がいがある人は行政や地域住民みんなで支える方がよい	1	2	3	4
9 保護者がしっかりと教育すれば、発達障がい（自閉症や学習障がい等）にはならない	1	2	3	4
10 気をしっかり持って生活していれば、精神障がいにはならない	1	2	3	4
11 こころの病気を治すには、薬を飲むしかない	1	2	3	4
12 全ての身体障がいは、見た目で見える	1	2	3	4

## Ⅱ あなたの地域生活についてお伺いします

問8 あなたは、近所の人とどういう付き合い方をしていますか。

(○は、最もあてはまるもの1つだけ)

- |                  |                 |
|------------------|-----------------|
| 1 お互いに自宅を行き来する程度 | 4 会えば、あいさつをする程度 |
| 2 困ったときには助け合える程度 | 5 付き合いはない       |
| 3 会えば、立ち話をする程度   |                 |

問9 あなたは、近所の人とどういう付き合い方をするのが望ましいと考えますか。

(○は、最もあてはまるもの1つだけ)

- |                  |                 |
|------------------|-----------------|
| 1 お互いに自宅を行き来する程度 | 4 会えば、あいさつをする程度 |
| 2 困ったときには助け合える程度 | 5 付き合いは必要ない     |
| 3 会えば、立ち話をする程度   |                 |

問10 あなたは、お住まいの地域で、どのような団体や組織の活動(地域活動)に参加していますか。(あてはまるものすべてに○)

- |                 |                |
|-----------------|----------------|
| 1 町内会・自治会       | 6 子育て支援サークル・団体 |
| 2 趣味のサークル・団体    | 7 社会福祉協議会      |
| 3 ボランティア・市民活動団体 | 8 その他 ( )      |
| 4 商工会・同業者団体     | 9 参加していない      |
| 5 老人クラブ         |                |



**【問10-1は、問10で「9 参加していない」と答えた方にお聞きします。】**

問10-1 あなたが、地域活動に参加できない(しない)理由は何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

- |               |                   |
|---------------|-------------------|
| 1 興味がない       | 7 一緒に活動する仲間がいない   |
| 2 人間関係がわずらわしい | 8 活動を呼びかける世話役がいない |
| 3 参加したい活動がない  | 9 活動にかかる費用負担が重い   |
| 4 参加できる時間がない  | 10 活動に関する相談窓口がない  |
| 5 活動に関する情報がない | 11 地域の人と集まれる場所がない |
| 6 きっかけがない     | 12 その他 ( )        |

問 11 あなた自身が困ったとき、**近所の方**にお願いしたいことは何ですか。  
(あてはまるものすべてに○)

- |                   |                   |
|-------------------|-------------------|
| 1 災害や緊急時の対応       | 7 日常的な買い物         |
| 2 安否確認のための声掛け     | 8 趣味などの話し相手       |
| 3 病院・学校等の送り迎え     | 9 役所等からくる書類の説明、要約 |
| 4 子育ての相談          | 10 その他 ( )        |
| 5 短時間の子どもの預かり     | 11 特にない           |
| 6 ゴミ出しなどの日常的な生活支援 |                   |

問 12 近所で困っている家庭があったとき、**あなた**のできることは何ですか。  
(あてはまるものすべてに○)

- |                   |                   |
|-------------------|-------------------|
| 1 災害や緊急時の対応       | 7 日常的な買い物         |
| 2 安否確認のための声掛け     | 8 趣味などの話し相手       |
| 3 病院・学校等の送り迎え     | 9 役所等からくる書類の説明、要約 |
| 4 子育ての相談          | 10 その他 ( )        |
| 5 短時間の子どもの預かり     | 11 特にない           |
| 6 ゴミ出しなどの日常的な生活支援 |                   |



## Ⅳ 社会福祉協議会（社協）の活動についてお伺いします

問 16 あなたは、社会福祉協議会を御存知ですか。（○は1つだけ）

- |                         |
|-------------------------|
| 1 知っている                 |
| 2 聞いたことはあるが、活動内容はよく知らない |
| 3 知らない                  |

▶【問 16-1 は、問 16 で「1 知っている」または「2 聞いたことはあるが、活動内容はよく知らない」と答えた方にお聞きします。】

問 16-1 あなたが知っている社会福祉協議会の活動内容は何か。  
（あてはまるものすべてに○）

<b>事業活動</b>	1 福祉意識の啓発活動	9 日常生活自立支援事業* <sup>2</sup>
	2 地域福祉活動計画の策定	10 障がい福祉サービス事業
	3 福祉に関する相談事業	11 住民懇談会・地区懇談会
	4 介護保険事業	12 サロン活動
	5 社会福祉大会・ふれあい広場	13 子育て支援活動
	6 共同募金運動	14 福祉・介護の人材養成・研修事業
	7 福祉教育活動	15 福祉体験機材の貸出 (高齢者疑似体験等)
	8 生活福祉資金貸付事業* <sup>1</sup>	16 広報誌の発行
<b>支援・運営活動</b>	17 住民や福祉関係者等の組織化	22 福祉の無料職業紹介
	18 ボランティア活動の振興	23 福祉関係団体の支援
	19 民生委員・児童委員の活動支援	24 福祉の図書館（情報センター）
	20 福祉サービスに関する苦情相談窓口	25 児童館等の運営
	21 社会福祉事業者の経営支援	26 福祉会館の運営
<b>その他</b>	27 その他の活動（	）
	28 活動内容はまったく知らない	

※<sup>1</sup> 生活福祉資金貸付事業とは、低所得の方や障がいのある方又は高齢の方へ、必要な資金をお貸しするとともに、相談支援を行うことで、経済的な自立や在宅で安定した生活を送ることができるようにする制度です。

※<sup>2</sup> 日常生活自立支援事業とは、認知症高齢者や知的障がいのある方など日常生活に不安がある方の、福祉サービスの利用を支援する制度です。



地域活動等に関する県民意識調査報告書

平成 24 年 3 月

社会福祉法人静岡県社会福祉協議会企画総務部

〒420-8670 静岡県静岡市葵区駿府町 1-70

TEL : 054-254-5237      FAX : 054-251-7508